



2022年1月12日

各位

上場会社名 シグマ光機株式会社
 代表者 代表取締役社長 近藤 洋介
 (コード番号 7713)
 問合せ先責任者 執行役員管理本部長 石井 康之
 (TEL 03-5638-8221)

2022年5月期 第2四半期業績予想と実績の差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2021年7月13日に公表した2022年5月期第2四半期累計期間(連結・個別)の業績予想と、本日公表の同実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、同じく2021年7月13日に公表した2022年5月期通期(連結・個別)の業績予想を下記の通り修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 第2四半期業績予想と実績の差異について

2022年5月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績の差異(2021年6月1日～2021年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,550	515	570	390	55.06
実績値(B)	4,989	754	824	605	85.54
増減額(B-A)	439	239	254	215	
増減率(%)	9.7	46.6	44.6	55.3	
(ご参考)前期第2四半期実績(2021年5月期第2四半期)	4,054	380	446	320	45.30

2022年5月期第2四半期個別累計期間の業績予想と実績の差異(2021年6月1日～2021年11月30日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,930	505	355	50.12
実績値(B)	4,341	711	531	75.06
増減額(B-A)	411	206	176	
増減率(%)	10.5	41.0	49.8	
(ご参考)前期第2四半期実績(2021年5月期第2四半期)	3,614	436	317	44.89

2. 通期業績予想の修正について

2022年5月期通期連結業績予想数値の修正(2021年6月1日～2022年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,280	1,090	1,215	840	118.60
今回修正予想(B)	9,885	1,370	1,500	1,070	151.08
増減額(B-A)	605	280	285	230	
増減率(%)	6.5	25.7	23.5	27.4	
(ご参考)前期実績(2021年5月期)	8,765	983	1,152	822	116.15

2022年5月期通期個別業績予想数値の修正(2020年6月1日～2022年5月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,080	1,075	755	106.60
今回修正予想(B)	8,645	1,315	950	134.13
増減額(B-A)	565	240	195	
増減率(%)	7.0	22.3	25.8	
(ご参考)前期実績(2021年5月期)	7,703	1,050	749	105.89

3. 2022年5月期 第2四半期累計期間(連結・個別)業績予想と実績の差異の理由

各国でのワクチン接種の普及や景気対策等により経済活動の再開が進み、特に半導体・電子部品業界の需要の急拡大に伴って産業分野の設備投資が堅調に推移し、産業分野向け及び海外向けの光学要素部品の需要が堅調に推移していることから、売上高は期初予想を上回りました。

利益面につきましても、光学要素部品の売上高の増加や、全社的な経費削減等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が期初予想を上回りました。

4. 2022年5月期 通期(連結・個別)業績予想の修正の理由

足元の世界経済は、電子部品・半導体業界等の一部の産業分野の研究開発投資・設備投資を中心に、引き続き回復基調で推移しております。その一方で、感染力の強い新型コロナウイルスの変異株の出現、半導体や一部原材料の供給不足や価格高騰等が見られており、景気の先行きに対する懸念材料も表面化してきております。

当社においては、産業分野を中心とした堅調な受注環境を背景に、産業分野向け及び海外向けの光学要素部品の需要は引き続き堅調に推移すると予想されることから、通期におきましても連結・個別の売上高は期初予想を上回る見通しとなりました。

利益面につきましては、海外地域における大型展示会への出展再開等といった前期と比べて経費の増加要因はありますが、堅調な受注環境を背景に下期の売上高が期初予想を上回ることが見込まれることと、製品ポートフォリオの改善と引き続き生産の効率化や全社的な経費削減等を推進することにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに通期の期初予想を上回る見通しとなりました。

※ 上記の業績予想につきましては、当社が発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。又、今後様々な要因により実際の業績等は大きく異なる可能性があります。

以上